



櫛紅葉 (はぜもみじ)

発行：令和5年12月12日（火） （文責） 校長 田中 克三



カラー版は学校ホームページでご覧になれます。QRコードはこちら→

今、重きを置くこと・考えてほしいことは何？

～ 新生徒会 生徒集会のカタチ ～



お知らせが遅くなりましたが、11月から2年生主体の新生徒会が船出しています。堤洗斗会長、中島真菜副会長を筆頭に役員選出が行われましたが、変わったのは役員の顔ぶればかりではありません。

新メンバーの発案で毎月1回開かれる生徒集会のやり方も大きく変わりました。11月28日（火）の生徒集会は、冒頭に登場した「校歌歌い隊」のメンバーが全校生徒をリードしての校歌斉唱から始まりました。まだまだ恥ずかしさも見えましたが、校歌を誇りをもって全校みんなで歌いたいという気概がうかがえました。

続いて行われた各専門委員会の報告も進め方が変わりました。これまではすべての委員会について前月の反省と今月の目標を読み上げていく形式でしたが、新生徒会はその月に特に重点を置きたいいくつかの活動に焦点化して全校生徒に訴える方式で進めています。要点をスライドにまとめ電子黒板に示したり、全員で体を動かす活動を入れたり、明らかに話を受ける側の全校生徒の顔が以前より上がっているのが分かります。生徒会を中心に今後の中原中生がどのように変化するのか、楽しみです。



凛とした司会の声に背筋も伸びる



「校歌歌い隊」が全校の歌声をリード



体育委員会企画：簡単ストレッチ

地域の方々とともに

～11.14 1年花いっぱい活動～



11月14日（火）、見事な晴天の中、1年生が今年2回目の「花いっぱい活動」を行いました。今回は、コミュニティ・スクール活動の一環として、生徒たちが小学生だった時のことをよく御存知の「姫方いきいきクラブ」を中心とした地域の方々と一緒に活動するよう企画しました。

恒例の職員玄関前のプランターに加え、校門横の花壇にエリアを拡大。パンジー、ヒオラの花苗に加え、チューリップの球根を地域の方から手ほどきを受けながら楽しく植えることができました。来春が楽しみです。



それぞれの道へ粘り強く

～11.2 3年進路説明会・激励会～

11月2日（木）、3年生の生徒・保護者対象に進路説明会・激励会を実施しました。当日は県立・私立高校の受験（受検）に向け、制度の説明や手続き方法を学年主任から説明。激励会ではこれから追い込みの時期を迎える3年生にエールを贈る意味で、今年もPTA役員の方々から「合格どら焼き」が渡されました（写真）。御支援、ありがとうございます。



既に21日（火）から行われた三者面談も終了しており、あとはどら焼きに描かれた「合格だるま」のように粘り強く取り組むだけです。**頑張れ！3年生！**

正しい情報を見極める



～11.14 2年生 性教育講演会～

11月14日(火)、2年生を対象とした「性教育講演会」を実施しました。講師は、昨年度に引き続き、産婦人科医の山田孝之先生にお願いし、「性教育とその周辺疾患について考える」というテーマで講演をいただきました。

思春期における二次性徴等の身体のしくみの話から講演はスタート。特に強調されたのは、性に関する考えは男女間で大きな差があり、その差を理解し合わないとトラブルや性犯罪につながる可能性があるということでした。また、ネット社会になり、多くの情報の中には誤った情報が紛れており、何が正しい情報なのか見極めていくことが大切であるということも教えていただきました。

後半は現在、感染者が増えている「梅毒などの性感染症」の話や「子宮頸癌ワクチン」の有効性についてふれられ、最新のデータや産婦人科医として携わってこられた経験等の事例を交えて具体的に指導していただきました。生徒たちには、今回学んだことを生かして、自分を、そして、相手を大切に歩んでほしいと思います。



一人一人の「ええところ」

～11.20 いのち・生き方を考える日～

校内にインフルエンザの流行が見られたため延期していた11月の「いのち・生き方を考える日」は、予定を変更して30日(木)に実施しました。

今回、発表を担当する1年生の企画で、前半は児童文学作家の「くすのきしげのり」氏の絵本『ええところ』の朗読、後半は1年生全員の「いいところ紹介スライド」が電子黒板に流されました。

くすのき氏の絵本のあとがきにこの本が生まれるきっかけとなった「よい子の石」という活動が紹介されています。

それは、くすのき氏が小学校の教諭だった20年ほど前に子どもたちと始めた活動で、ホームセンターから買ってきた白い玉砂利をたくさん教室に用意しておいて、自分が「善い行い」ができた時や頑張ったときには自分のペットボトルに、友だちの



「善い行い」を見つけた時には、その友だちのペットボトルに「よい子の石」を入れるという活動だったそうです。石をもらった時の子どもたちの花が開くような笑顔…そこからこの絵本は生まれました。

本校でも似たような活動を見つけました。右の写真はある教室にある掲示物です。4月には枝だけだった桜の木の絵に、月末実施のアンケートの中で「頑張っている人」として生徒が記載した内容を花びらのカードに書き起こして貼っていく活動をやっているそうです。——少しずつ増えて今はもう「8分咲き」といったところでしょうか…。



「ほめるから、はじめる。はじまる。」——これは県教委が掲げる「佐賀県教育の合言葉」ですが、私も子を育てる一人の親として、そして、教育に関わるものとしてこのことを心がけてはいるものの、どうしても我が子や生徒の足りない部分やできていない部分に目が行きがちになってしまいます。

今回、一年生の発表を見て、一人一人のいいところをしっかりと見つけ、認め、相手にとって(自分にとって) 絶対的な安心感を与えられるような関係性をつくることの大切さを再認識しました。

子どもたちの「ええところ」をいくつ言えますか？
子どもたちにどんな言葉かけをしていますか？

なかばるコミュニティの人⑦

なかむら ゆりこ やまさききょうこ
中村百合子さん・山崎享子さん



「何人かは小学生の頃から知っとるとですよ」——活動する1年生の生徒たちを見つめる眼差しは、まるで自分の孫を見つめるかのようだ。

姫方区が学校に程近いことから声が掛かり今回の「花いっぱい活動」に参加したが、それだけではない。以前から携わっている「土曜スクール」で手芸や NEW スポーツに参加してくれていた子どもたちが中学生になってどんな風に成長したのか見てみたいという気持ちが大きかった。

「花植えや球根植えつけが初めてという生徒もおったけど、植え方を教えたら、素直に聞いてくれました。この後も大切に育ててほしいですね」と笑顔。

地域の一人として、一段と大きくなった中学生に対して「生徒たち自身もそれぞれの花を咲かせるために、これからも保護者や地域の方々に支えられながら成長してほしいですね」と温かいメッセージ。

